

老人福祉の問題を新聞で（道徳）

＝ 熊本県熊本市立城西小学校 教諭 村上 浩一

一、はじめに

8月10日の地元新聞（熊本日日新聞）は、次のように人口動態のことについて述べている。

出生者数は調査を始めた一九八〇年以降、最低の百十八万二千二百十六人一方、六十五歳以上の老年人口は前年比三・九三%増の千八百六十一万七千二百九十八人で、総人口に占める割合は〇・五三ポイント上昇して一四・九〇%と、少産と高齢化が一段と進んだ。

さらに、9月10日の同新聞は、「百歳以上 七千人突破」という見出しで、高齢化社会の到来を述べている。十年前は、百歳以上が二千人に満たなかった。

一方で、現在の平均寿命は、男性76・36歳、女性82・84歳である。予想では、予想では、二〇二五年には、老人が4人に1人の割合になるのだそうだ。

高齢化社会の到来に備えて、今の子どもたちに、これらのことをどう授業していくか、大きな問題だと言える。

奇しくも、今、熊本市では「バリアフリー」と言って、福祉の街づくりを目ざしている。車椅子で歩ける社会、老人や「障害」者に優しい福祉機器・補助具等の展示会等を催している。国家においても、「公的介護保険」の問題がクローズアップされてきている。

我々も子どもたちも、いつかは当事者、つまり「老人」になる。今のうちから、真剣に考えていきたいものである。核家族化が進んでいる今日においては、特に必要なことであると考えられる。

二、道徳の授業で

老人福祉の問題を道徳の授業で扱ってみた。内容の項目としては、「支え合い・感謝」（2の ）、「公共奉仕」（4の ）、「敬愛・家族愛」（4の ）の3つが考えられる。ここでは、「支え合い・感謝」として、授業を試してみた。

ねらいは、次のようにした。

高齢化社会を迎えるに当たって、老人の置かれている現状を知り、自分はその問題にどう接していくか、どう支えあっていくかを考え、老人を敬愛する心情と態度を育てる。

三、授業の流れ

次のような形で進めていく。(1時間もくしは2時間)

学 習 活 動	主な発問・指示・説明等	資 料
<p>1. 日本人の平均寿命を知り、本時の目標を知る</p> <p>2. 人口動態の現状を新聞から読み取る</p> <p>3. 両親の介護について討論する</p> <p>4. 自分の介護について考える。</p>	<p>〔発問1〕</p> <p>今から配るグラフには、題名と横と縦軸の単位が書いてありません。一体、何のグラフでしょうか。題名をノートに書きなさい。</p> <p>・日本が世界一の長寿国であることを知らせ、「老人問題」について学習していくことを知らせる。</p> <p>〔指示1〕</p> <p>今から、新聞記事を配ります。日本の人口のことについて、わかったことをノートに箇条書きにしていきなさい。</p> <p>・出生数の減少、老年人口の増加、長寿者の増加等を確認していく。</p> <p>・将来の予測について、説明をする。(二〇二五年の事について)</p> <p>〔発問2〕</p> <p>皆さんの両親が老人になって、立てなくなり、寝たきりの生活になったとします。あなたは、どうしますか。2つのうちから1つ選び、理由も書きなさい。</p> <p>・二者択一を迫り、討論をしていく。 A：自分で世話する。 B：他人(老人ホーム等)に任せる。</p> <p>〔発問3〕</p> <p>では、今度は皆が老人になって、一人で歩けなくなった時、誰に面倒みたもらいたいですか。妻や夫はいないものとします。自分の子どもはいるとします。</p>	<p>・「平均寿命」のグラフ(新聞記事のグラフのみを印刷して配布)</p> <p>・高齢化や人口に関する新聞記事</p>

<p>5 . 福祉の在り方について考える</p>	<p>・先程の討論とも含めて、理想論と現実論で葛藤するであろう。</p> <p>〔発問4〕</p> <p>そこで、老人を介護する何かからの対策が必要ですね。どんなのが考えられますか。</p>	<p>・在宅介護サービスについての新聞記事</p> <p>・介護の補助具</p>
<p>6 . 本時のまとめ</p>	<p>・最初に予想を出させ、その後、新聞記事で補強していくようにする。</p> <p>・子どもたちと高齢化社会とは無縁ではないこと、これからは支え合いが大切なことを告げる。</p>	

指示1では、二〇二五年には、子どもたちが何歳になるか、計算させてみると実感がわいてくるだろう。

発問2では、簡単にするため二者択一にしたが、実際は介護の様式もたくさんあるようだ。

発問2及び3において、両親の介護はしたくないけど、自分の介護は他人ではなく、自分の子どもにしてもらいたいということが出てくる。この矛盾についていきたい。

まとめにおいては、今後もこれらの問題は新聞にも登場するので、切り取って自学の課題として、取り組んでいくよう言及しておく。

四、おわりに

この授業は、社会科の授業としても扱えるだろう。簡単にやるなら道徳で、詳しくやるなら社会科でということにもなるだろう。我々現代人は、「老人」「高齢化」とは無関係ではなく、切実な問題であること、そして皆で支えあって生きていかねばならないことを訴えていきたい。

